

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年8月8日

【四半期会計期間】 第93期第1四半期(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

【会社名】 新明和工業株式会社

【英訳名】 ShinMaywa Industries, Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 大西良弘

【本店の所在の場所】 兵庫県宝塚市新明和町1番1号

【電話番号】 0798 56 5000(代表)

【事務連絡者氏名】 財務部長 久米俊樹

【最寄りの連絡場所】 兵庫県宝塚市新明和町1番1号

【電話番号】 0798 56 5000(代表)

【事務連絡者氏名】 財務部長 久米俊樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第92期 第1四半期 連結累計期間	第93期 第1四半期 連結累計期間	第92期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (百万円)	43,503	43,519	203,917
経常利益 (百万円)	4,477	1,509	15,596
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	2,909	951	10,281
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,032	548	8,624
純資産額 (百万円)	108,192	109,836	113,079
総資産額 (百万円)	175,552	176,305	186,780
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	29.19	9.75	103.15
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	61.6	62.3	60.5

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
 2 売上高は消費税等を含んでいない。
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

なお、重要事象等は存在していない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものである。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業の設備投資計画は堅調なものの、円高が輸出産業の企業業績を押し下げたほか、英国の欧州連合離脱に関する情勢が金融市場に大きな混乱をもたらすなど、先行きへの懸念を残した状態で推移した。

こうした中、当社グループは、3カ年の中期経営方針の活動2年目を迎え、「事業基盤の堅持と『殻』を破る新たな挑戦」を基本方針とした企業価値の更なる向上に向けた諸施策を実行した。

当第1四半期連結累計期間の業績については、前年同期に比べ為替が円高で推移したことが減収要因となったものの、国内市場が堅調に推移した結果、受注高は44,476百万円(前年同期比3.0%減)、売上高は43,519百万円(同0.0%増)となった。

損益面は、航空機セグメントにおいて、為替が円高で推移したことなどの影響を受け、営業利益は1,660百万円(同62.7%減)、経常利益は1,509百万円(同66.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は951百万円(同67.3%減)となった。

セグメントの業績は次のとおりである。なお、各セグメントの受注高及び売上高には、セグメント間の内部受注高及び内部売上高を含んでいる。

(航空機)

防衛省向けは、機体部品の受注が増加したほか、US-2型救難飛行艇の製造が進捗したことから、受注、売上ともに増加した。

また、民需関連は、ボーイング社「787」向け主翼スパーの納入機数が増加したものの、為替が円高で推移したことなどから、全体としては、受注、売上ともに減少した。

この結果、当セグメントの受注高は3,871百万円(前年同期比1.0%増)、売上高は10,611百万円(同1.0%減)となり、営業利益は689百万円(同76.2%減)となった。

(特装車)

車体等の製造販売は、受注、売上ともに前年同期並みの水準となった。

また、保守・修理事業は、受注は増加し、売上は前年同期並みの水準となった。

このほか、林業用機械等は、需要が高水準だった前年同期に比べ、受注、売上ともに減少した。

この結果、当セグメントの受注高は21,558百万円(前年同期比0.8%減)、売上高は19,655百万円(同0.9%減)となり、営業利益は1,819百万円(同7.5%減)となった。

(産機・環境システム)

流体製品は、受注は前年同期並みの水準となったものの、システム製品の販売が堅調に推移したことなどから、売上は増加した。

また、メカトロニクス製品は、受注、売上ともに前年同期並みの水準となった。

このほか、環境関連事業は、大口案件が寄与し受注は増加したものの、廃棄物処理施設の新設工事の減少等により、売上は減少した。

この結果、当セグメントの受注高は7,815百万円(前年同期比1.8%増)、売上高は4,910百万円(同2.1%増)となったが、営業損益は285百万円の損失となった。

(パーキングシステム)

機械式駐車設備は、都市部での堅調な需要が継続したことなどから、受注は増加し、売上は前年同期並みの水準となった。

また、航空旅客搭乗橋は、受注は増加したものの、売上は減少した。

この結果、当セグメントの受注高は8,180百万円(前年同期比15.0%増)、売上高は5,834百万円(同4.8%減)となり、営業損益は118百万円の損失となった。

(その他)

建設事業において、受注は減少したものの、売上は工事進捗等により増加し、当セグメントの受注高は3,769百万円(前年同期比39.7%減)、売上高は3,063百万円(同17.8%増)となり、営業利益は106百万円(同2.5%増)となった。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、対処すべき課題について重要な変更はない。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、534百万円である。

(4) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第1四半期連結累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりである。

新設

会社名及び事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着工年月	完成年月
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
新明和工業(株) 甲南工場 (神戸市東灘区) (注) 2	航空機	航空機 生産設備	1,965	1,477	自己資金 及び借入金	平成26年 4月	平成30年 3月

(注) 1 上記の金額には消費税等を含んでいない。

2 航空機生産設備は、完成年月を平成31年3月より平成30年3月に変更している。

3 既支払額には事業の用に供しているものを含んでいる。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	100,000,000	100,000,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 は1,000株 である。
計	100,000,000	100,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日		100,000,000		15,981		15,737

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容を確認できず、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 327,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 99,269,000	99,269	
単元未満株式	普通株式 404,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	100,000,000		
総株主の議決権		99,269	

【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 新明和工業株式会社	兵庫県宝塚市 新明和町1-1	327,000		327,000	0.33
計		327,000		327,000	0.33

(注) 当社は、資本効率の向上を図ることを目的として、平成28年5月11日付取締役会決議に基づき、同年5月12日、自己株式4,203千株を取得している。

2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の新任及び退任並びに役職の異動はない。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,085	18,687
受取手形及び売掛金	76,642	61,107
商品及び製品	2,865	3,436
仕掛品	20,702	22,998
原材料及び貯蔵品	15,066	15,431
その他	8,022	7,651
貸倒引当金	19	25
流動資産合計	140,366	129,286
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,883	12,084
その他（純額）	17,247	18,009
有形固定資産合計	29,131	30,093
無形固定資産	2,402	2,388
投資その他の資産		
その他	14,938	14,595
貸倒引当金	58	58
投資その他の資産合計	14,879	14,536
固定資産合計	46,413	47,018
資産合計	186,780	176,305

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	31,472	27,004
1年内返済予定の長期借入金	2,000	2,000
未払法人税等	3,070	302
製品保証引当金	27	25
工事損失引当金	3,200	3,911
その他	19,833	19,069
流動負債合計	59,603	52,313
固定負債		
退職給付に係る負債	11,063	11,136
その他	3,034	3,018
固定負債合計	14,097	14,155
負債合計	73,700	66,468
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,981	15,981
資本剰余金	15,737	15,737
利益剰余金	81,522	81,776
自己株式	154	3,248
株主資本合計	113,088	110,248
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,717	1,557
土地再評価差額金	376	376
為替換算調整勘定	420	156
退職給付に係る調整累計額	1,856	1,827
その他の包括利益累計額合計	94	490
非支配株主持分	85	78
純資産合計	113,079	109,836
負債純資産合計	186,780	176,305

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	43,503	43,519
売上原価	34,318	36,974
売上総利益	9,184	6,544
販売費及び一般管理費	4,738	4,884
営業利益	4,445	1,660
営業外収益		
受取利息	4	3
受取配当金	61	72
その他	20	20
営業外収益合計	86	96
営業外費用		
支払利息	8	4
持分法による投資損失	22	52
為替差損	8	159
その他	15	31
営業外費用合計	54	247
経常利益	4,477	1,509
特別利益		
固定資産売却益		77
投資有価証券売却益	24	
特別利益合計	24	77
特別損失		
固定資産処分損	44	24
特別損失合計	44	24
税金等調整前四半期純利益	4,457	1,562
法人税、住民税及び事業税	306	337
法人税等調整額	1,245	277
法人税等合計	1,551	614
四半期純利益	2,905	948
非支配株主に帰属する四半期純損失()	3	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,909	951

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	2,905	948
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	111	160
為替換算調整勘定	35	192
退職給付に係る調整額	46	28
持分法適用会社に対する持分相当額	4	74
その他の包括利益合計	126	399
四半期包括利益	3,032	548
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,035	555
非支配株主に係る四半期包括利益	2	6

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項なし。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用している。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

(1) 履行保証保険契約に基づく債務に対する連帯保証

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
エコセンター湘南(株)	29百万円	エコセンター湘南(株)	29百万円
のぎエコセンター(株)	百万円	のぎエコセンター(株)	22百万円
計	29百万円	計	51百万円

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
受取手形裏書譲渡高	20百万円	6百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
減価償却費	991百万円	1,096百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	797	8	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
 後となるもの
 該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	697	7	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
 後となるもの
 該当事項なし。

3 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成28年5月11日開催の取締役会決議に基づき、当第1四半期連結累計期間において自己株式4,203千株の取得を行った。当該自己株式の取得などにより、自己株式が3,094百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末における自己株式は3,248百万円となっている。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	航空機	特装車	産機・環境 システム	パーキング システム	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	10,720	19,832	4,810	6,129	41,492	2,010	43,503		43,503
セグメント間の 内部売上高又は 振替高		0	0	2	3	588	592	592	
計	10,720	19,833	4,811	6,131	41,496	2,599	44,096	592	43,503
セグメント利益又 はセグメント損失 ()	2,894	1,967	389	400	4,871	103	4,975	529	4,445

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設事業、不動産事業、ソフトウェア事業等を含んでいる。
2 セグメント利益の調整額 529百万円には、セグメント間取引消去 24百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 505百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的試験研究費である。
3 セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	航空機	特装車	産機・環境 システム	パーキング システム	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	10,611	19,654	4,909	5,831	41,007	2,511	43,519		43,519
セグメント間の 内部売上高又は 振替高		1	1	3	5	551	557	557	
計	10,611	19,655	4,910	5,834	41,012	3,063	44,076	557	43,519
セグメント利益又 はセグメント損失 ()	689	1,819	285	118	2,104	106	2,210	550	1,660

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設事業、不動産事業、ソフトウェア事業等を含んでいる。
2 セグメント利益の調整額 550百万円には、セグメント間取引消去 0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 549百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的試験研究費である。
3 セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項なし。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	29円19銭	9円75銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	2,909	951
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	2,909	951
普通株式の期中平均株式数(株)	99,680,296	97,571,380

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2 【その他】

該当事項なし。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年8月5日

新明和工業株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高	木	勇	印	
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	古	田	賢	司	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている新明和工業株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、新明和工業株式会社及び連結子会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。